平成19年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ヒラメ

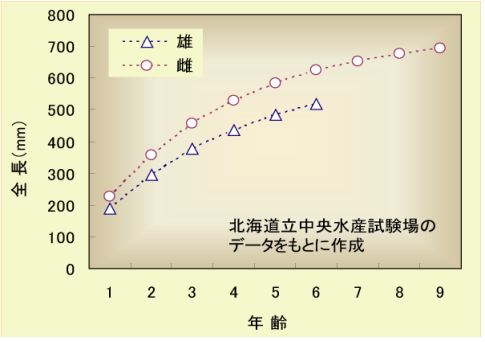
学名　*Paralichthys olivaceus*

系群名　北海道系群

担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特性

寿命:	不明
成熟開始年齢:	雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場:	6～8月、水深20～50mの浅海域
索餌期・索餌場:	不明
食性:	仔稚魚では動物プランクトン、着底期稚魚ではアミ類、未成魚・成魚では魚類・エビ類・イカ類等が主要な餌
捕食者:	詳細は不明

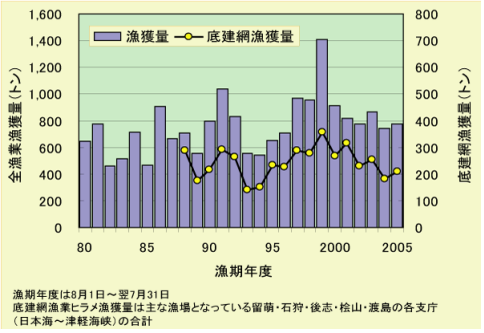


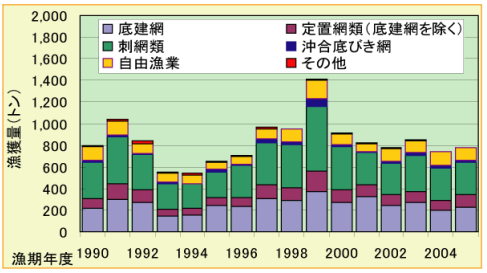
漁業の特徴

北海道沿岸のヒラメは主に日本海と津軽海峡において、底建網等の定置網、刺し網、釣り、沖合底びき網などで漁獲される。漁獲量は6～7月に多く、10～12月にも増加する。6～7月は水深20～50mの海域で、10～12月は水深50～120mの海域で漁獲される。

漁獲の動向

北海道のヒラメ漁獲量は1960～1970年代の1,500～2,000トンから1980～1990年代に500トン前後まで減少し、以後は500～900トンの間で増減を繰り返している。1990年代半ば以降は増加が続き、1997～2000年度には900トンを超過した。2001年度以降は2001年度818トン、2002年度774トン、2003年度865トン、2004年度743トン、2005年度775トン（暫定値）と推移している。



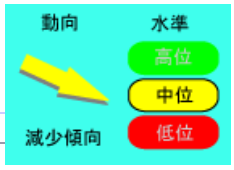


資源評価法

ヒラメ北海道系群の資源評価には、漁獲量を使用した。また、底建網漁業の漁獲量と全長組成の推移も参考にした。ABCは北海道のヒラメ漁業の実態に則した漁期年度（8月～翌7月）単位で算定した。資源の水準と動向を判断するために用いた漁獲量などは、漁期年度単位に変換して使用した。

資源状態

最近26年間の漁獲量から、2005年度の資源水準は中位と判断される。2001年度以降の漁獲量は変動しつつ減少傾向である。また、底建網漁業の漁獲量は1999～2000年度に大きく減少した後、2001年度以降は減少傾向である。全長組成では小型魚の割合の低い状態が続いており、加入量が減少している可能性がある。以上から、資源動向は減少傾向と判断される。



管理方策

2005年度の資源水準は中位であると判断され、2001年度以降の漁獲量の推移、底建網漁業の漁獲量の推移および全長組成における小型魚の割合の推移から資源動向は減少傾向と判断された。
ABClimitは、2001～2005年度の平均漁獲量に、資源動向が減少であることを考慮して0.9を乗じて算出した。
ABCtargetは、ABClimit（＝0.9Cave5-yr）に0.8を乗じた漁獲量とした。現在実施中の全長35cm未満の漁獲制限遵守を徹底し、成長乱獲を抑制することが必要である。

	2008年度漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	720トン	0.9Cave5-yr	－	－

ABCtarget	570トン	0.8・0.9Cave5-yr	―	―

- ABCは10トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 資源水準は最近26年間の漁獲量から中位と判断される
- 資源動向は漁獲量の推移、底建網漁獲量の推移および全長組成における小型魚の割合の推移から減少傾向と判断される

管理方策のまとめ

- 2008年度のABCは、2001～2005年度の資源動向が減少傾向であることに配慮して設定
- 未成魚保護のための全長35cm未満の個体の漁獲制限尊守を徹底し、成長乱獲を抑制することが必要である

資源評価は毎年更新されます。